

「指導と評価の一体化」を図る学習評価を どう進めるか

— 歴史的分野を中心として —

鳴門教育大学大学院学校教育研究科 教授 梅津 正美

1 学習評価の意義

学習評価の意義は、主に3つあろう。第1は、目標に準拠して児童生徒の学習の改善につながる評価であること。第2に、教員の授業改善につながる評価であること。第3に、教科教育等を包括するカリキュラムや教員組織等の改善につながる評価であることである。

学習評価の手だては、「目標」・「指導」・「評価」・「改善」を一体的に捉える中で検討されねばならない。

2 単元の展開と結んだ学習評価の進め方

新学習指導要領における目標に準拠した評価は、①「知識・技能」、②「思考・判断・表現」、③「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点から行うようになっている。この3つの評価の観点に即して、国立教育政策研究所は、「内容のまとめりごとの評価規準」を例示している。歴史的分野の場合を見ていこう。歴史的分野では、評価のための「内容のまとめり」(＝「単元」)は、学習指導要領の中項目を基本とすることとされている。そして、中項目に配置されている知識目標アを構成する小項目を、評価における「小単元」として示している⁽¹⁾。表1は、大項目B「近世までの日本とアジア」のうちの中項目(3)「近世の日本」の評価規準例である⁽²⁾。「指導と評価の一体化」のための学習評価を進めるためには、社会科教員が、示された評価規準例を、単元の構成・展開の仕方と結びつけて解釈し、実践に生かしていくことが求められる。そのための具体的な手だてについて、3つの評価

観点に即して留意すべき点を指摘したい。

(1) 学習内容の構造化に対応した「知識・技能」の評価規準の理解

「知識・技能」の評価規準における「～を基に、～を理解している。」という構文の意味を「学習内容の構造化」という視点からよく理解する必要がある。生徒が獲得した知識として中心的な評価の対象になるのは、「～を理解している」の「～を」に当たる事象の意味や意義、時代の特色を示した概念的知識である。「近世の日本」では、時代区分に応じて以下の概念になる。

- (ア) (16世紀後半) 近世社会の基礎の構築
- (イ) (17世紀前半) 幕府と藩による支配の確立
- (ウ) (17世紀後半～18世紀前半) 都市を中心とする町人文化と各地方の生活文化の特色
- (エ) (18世紀後半～幕末) 幕府政治の行き詰まり

「～を基に」の「～を」に当たる事象については、個別の知識(記述的知識)の量を評価の対象にしてはならない。学習内容となる概念的知識と結んで、焦点化された諸事象についての記述的知識が背景や原因、結果や影響等を視点に相互に関連づけられ、説明されていることを評価しなければならない。

(2) 「学習問題－思考・判断・表現－知識の獲得」をひとまとめとした評価の遂行

中項目の学習の展開において、「知識・技能」と「思考・判断・表現」の評価は、学習問題と結びつけて、ひとまとめとして評価することが大切である。

例えば、国立教育政策研究所は、中項目(3)「近世の日本」の学習活動と評価計画を例示している⁽³⁾。中項目全体を貫く学習問題として、

「あなたは、近世社会の基礎はどのように築かれ、どのように変容し、近代へとつながったと考えますか。」という問いを立て、それを受けて、学習指導要領上の知識目標アの(ア)～(エ)に対応させて4つの小单元ごとに学習活動と評価計画を示している。表2は、知識目標(イ)に対応した小单元2を抜粋したものである。ここからは、「知識・技能」と「思考・判断・表現」の評価計画を作成する場合の次のような基本的な考え方を読み取ることができる。

第1は、中項目全体を貫く学習問題を作り、それと結びつくように小单元ごとに学習内容となる概念的知識の獲得に至る学習問題をつくること。例えば小单元2では、「なぜ、江戸幕府は、長い間政治の権力を保てたのだろうか。」という問題に対応して、知識目標の「～を基に」の事象として上がっている「江戸幕府の成立と大名統制」「身分制と農村の様子」「鎖国などの幕府の対外政策と対外関係」の3つについて下位問題をつくり問いの構造化を図ることである。

第2は、生徒が、3つの下位問題ごとに、焦点化された事象である「大名統制」「身分制」「鎖国」などについて、見方・考え方である「目的」「関係」「影響」などに着目して、諸資料を活用しながら多面的・多角的に考察し、その結果を

クラスに表現(説明したり、議論したり)することを通して、「幕府と藩による支配の確立」という概念的知識を獲得していくように学習過程を組織すること。こうした学習過程において、「知識・技能」と「思考・判断・表現」の評価は、セットで行うことである。

第3は、教員の評価活動は、小单元ごとに形成的評価(学習改善につなげる評価活動:表2中「●」表記)と小括としての評価(評定のための記録を残す評価活動:表2中「○」表記)とをスモールステップで積み重ね、中項目のまとめ(時代を大観する学習)での総括的評価につなげるように展開することである。このことは、教員の評価活動に要する質的・量的・時間的な負担にも配慮しながら、どこで、どのような評価活動を行うべきかをも示唆している。

(3) 長期的なスパンでの「主体的に学習に取り組む態度」の評価

「主体的に学習に取り組む態度」の評価は、生徒自身による学習の振り返りと調整を観点にしている。生徒に、「自己の学習をメタ認知する能力」を求めている訳である。従ってその評価は、クラス等の学習集団一律に進めるのではなく、生徒個々人の特性と学習のプロセスを十分に踏まえて実施する必要がある。この観点

表1. 中項目(3)「近世の日本」の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ヨーロッパ人来航の背景とその影響、織田・豊臣による統一事業とその当時の対外関係、武将や豪商などの生活文化の展開などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、近世社会の基礎がつくられたことを理解している。 江戸幕府の成立と大名統制、身分制と農村の様子、鎖国などの幕府の対外政策と対外関係などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、幕府と藩による支配が確立したことを理解している。 産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がりなどを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたことを理解している。 社会の変動や欧米諸国の接近、幕府の政治改革、新しい学問・思想の動きなどを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 交易の広がりとその影響、統一政権の諸政策の目的、産業の発達と文化の担い手の変化、社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。 近世の日本を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 近世の日本について、見通しをもって学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら課題を追究しようとしている。 学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりを見いだそうとしている。

の評価は、中項目の学習の終わりや学期の学習の終わり等、比較的長い時間のスパンで実施することが適当である。教員による評価活動だけでなく、生徒の自己評価や相互評価の活動を適宜組み込みながら、一人一人の学習に対する意欲の向上や課題の探究に向けての態度、学習の振り返り、調整等を丁寧に見取っていくようにしたい。

3 学習評価のためのツールの選択と構成

目標・授業と一体化した学習評価を実施するためには、学習評価のための具体的なツールの構成を工夫することが大切である。目標に準拠した評価は、学習の総括として学期の中間・期末等に行うペーパーテストによるだけでなく、単元の学習の過程での生徒のワークシートへの記述や発言、レポート、作業的活動とその成果を示した作品、発表等、多様なツールを用いて行いたい。生徒自身による自己評価や相互評価のためのシートも工夫したい。

教員が作成するワークシートやペーパーテストは、評価すべき学習内容として知識の構造(記

述的知識・説明的知識・概念的知識・価値的知識の相互の結びつき)や思考・判断した結果を表現する方法・順序を適切に組み込んだ構成にする必要がある。生徒が思考・判断の過程を言語として表出する方法は、一般的に次のような順序となる。

- ①記述：歴史的事象に関する諸事実を正確に読み取り記述する。
- ②説明：見出された諸事実の関係を説明する。
- ③解釈：諸事実の関係を踏まえ、歴史的事象の意味・意義や時代の特色等を解釈する。
- ④論述：歴史的事象についての解釈や社会的課題に対する自分の主張(選択・判断)を根拠に基づいて論述する。
- ⑤議論：根拠に基づいて互いの解釈や主張を論じ合う。

【注】

- (1) 国立教育政策研究所教育課程研究センター編『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』2020年3月, p.63
<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html>
- (2) 同上資料, p.62
- (3) 前掲(1)資料, pp.64-66

表2. 中項目(3)「近世の日本」の「小単元2」の学習活動と評価計画

(○…「評価に用いる評価」, ●…「学習改善につなげる評価」)

	学習活動	評価の観点		評価規準等
		知	思 態	
小単元2	【ねらい】 統一政権の諸政策の目的などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近世の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現することを通して、幕府と藩による支配が確立したことを理解する。			
	小単元の学習課題「なぜ、江戸幕府は、長い間政治の権力を保てたのだろうか」			
	①1次の課題「江戸幕府はどのように大名を統制したのだろうか」について、資料を活用して考察し、話し合った結果を発表する。	●	●	●資料から学習上の課題につながる情報を適切に読み取っている。 ●1次の課題について、中世の武家政治との違いや諸政策の目的に着目して考察し、相互に結果を表現している。
	②2次の課題「江戸時代の社会の仕組みの中で、農村や各地の特産品はどのような役割を担っていたのだろうか」について、資料を活用して考察し、ワークシートに記入する。	●	●	●資料から学習上の課題につながる情報を適切に読み取っている。 ●2次の課題について、諸政策の目的、農村の生活や幕藩体制の経済基盤との関係などに着目して考察し、その結果を表現している。
	③3次の課題「鎖国などの幕府の対外政策と対外関係がその後の日本にどのような影響を与えたのだろうか」について、資料を活用して考察し、話し合った結果をワークシートに記入する。	●	●	●資料から学習上の課題につながる情報を適切に読み取っている。 ●3次の課題について、貿易政策が与えた影響などに着目して考察し、相互に結果を表現している。
④各次の学習内容を踏まえて、小単元の学習課題「なぜ、江戸幕府は、長い間政治の権力を保てたのだろうか」について資料を活用して考察し、ワークシートに記入する。	○	○	○統一政権の諸政策の目的などに着目して、小単元の学習課題について考察し、結果を表現している。 ○「幕府と藩による支配が確立したこと」を説明している。	
○中項目全体を貫く問いとの関わりを確認する。		●	●自己の学習について振り返り、調整しようとしている。	